

# 知的対流拠点のあり方論点整理

---



## 各論点に照らして事例に見られること①

### 論点①：地域の強みとなる資源を、誰がどのようにして発見したらよいか。

- 事例に見られる資源の発見者とその背景等は以下のとおり。
- これらを踏まえ、今後、地域の強みとなる資源を発見するためのポイントを整理。
  - 備後連携中枢都市圏：歴史的、地理的、経済的な結びつきと人口減少など共通する課題への対応の必要性の高まりを背景に、福山市が中心となり圏域の産学官金等からなる協議体を設立。びんご圏域のポテンシャルを最大限に活かすことを目指し、デニムプロジェクトなど知恵の出し合いを行っている。
  - 久留米市：新たな基幹産業育成という産業政策上の課題を背景に、福岡県と久留米市が、北部九州の交通結節点という特性、久留米市のリサーチパークや、大学、研究所、病院、バイオ関連企業に着目。
  - 江別市：食品関連企業や農家が特色ある商品の差別化ができないという課題を認識する中、江別市が「食と健康のまちづくり」を提唱。その下で、市を中心とする大学・研究機関等との連携協定等を背景に、北海道情報大学の医師が食材の価値やバイオの研究結果が十分に活かされていない状況に着目。
  - 鶴岡市：市内の大学等の高等教育機関が少なく高校卒業後の若者が市外に出て行く状況を背景に、鶴岡市が、慶應義塾大学に新たな研究教育機関の立地を要請。慶應義塾大学は、市と連携して開設運営する新しい研究教育機関の姿を目指せる点に着目。また、先端的な研究教育を実現し、その成果を自治体や企業に移転していくことで、地域振興の支援拠点を目指すこととした。
  - 飯田市・下伊那地域：通過型観光から着地型観光を目指す取組を背景に、飯田市が、体験型の観光資源として自然景観・農産物に着目。また、農業体験を中心とした観光プログラムの取組の中で得られたニーズをもとに、農家とその住民の協力も観光資源として農家民泊を実施。
  - 甲州市：全国的にワインが注目され始めた1970年代に、甲州市（旧勝沼町）が、歴史的なブドウ栽培、ワインの産地、ワイナリー集積の強みを活かし「ワインで活性化を図る」取組を推進。
  - 鯖江市：市の伝統産業である眼鏡フレームが海外からの安価な製品により厳しい状況に置かれる中、鯖江市と地元眼鏡産業が、「作るだけの産地」から「作って売る産地」への転換を促進。
  - 湯沢市：市の伝統産業である漆器が海外からの安価な製品等により厳しい状況に置かれる中、湯沢市（旧稲川町）が、「匠の里構想」を策定し漆器産地の活性化の取組を推進。
  - 四万十町：四万十町（旧大正町他）が、地域の人材育成、商品開発、販路開拓及び地域おこしを主な事業とする第三セクター「四万十ドラマ」を設立。その社員が地元の方々とのコミュニケーションを通じ、地域の産品、人、技術等の価値を発見。

## 各論点に照らして事例に見られること②

### 論点②：各活動主体がどのような体制づくり・手順を踏まえるべきか。

- 事例からは、各活動主体の体制づくり・手順において次のような視点が重要と考えられる。
- これらを踏まえ、今後、必要な体制づくり・手順を整理。

#### 初動期における自治体の役割

自治体の役割は、自ら事業を仕掛けている場合、関係者のコーディネートをしている場合及び民間の活動を側面からサポートしている場合など様々であるが、いずれの事例においても、初動期において自治体のリーダーシップ、イニシアティブが大きな役割を果たしている。

- ・自治体自ら事業主体となり、事業を開始（甲州市、飯田市、四万十町）
- ・自治体が研究開発や産業活動を支援する施設整備と運営を実施（久留米市、鶴岡市、甲州市、湯沢市）
- ・自治体が地域の関係者のコーディネートを行い、新たな活動を開始（福山市、久留米市、江別市、飯田市、甲州市、鯖江市、湯沢市）

#### 地域のなかでの問題意識の共有と連帯

行政と事業者を中心に事例によっては地域の農家・住民なども含め、地域の課題を認識・共有している。それが地域の連帯のベースとなり、あらゆる活動場面で重要な役割を果たしている。

- ・若者を中心とした人口減少、伝統産業や農業など地域産業の衰退、新たな基幹産業の育成など、地域内の課題を関係者が認識・共有し、活動に着手（全事例）
- ・地域の産業振興と住民の健康に着目したまちづくりスローガンを掲げて産学官住民のネットワーク活動を拡大（江別市）
- ・上位自治体とともに研究開発や産業クラスターづくりの大きなランドデザインを描き、それに沿った活動を展開（久留米市、江別市、鶴岡市）
- ・産地の伝統産業の将来ビジョンをもち、それに向けてぶれることなく活動を展開（甲州市、鯖江市、湯沢市、四万十町）
- ・農業など地域産業の生き残りや活性化に向けた危機感を共有し、地域住民の主体的な参画によって製品開発、プログラム開発を推進（飯田市、湯沢市、四万十町）

（次頁へつづく）

## 各論点に照らして事例に見られること②

### リーダー人材の存在

地域のリーダー的な人材がいて、地域発イノベーションに向けて重要な役割を果たしている。

- ・産地に自主的なグループ活動を進める工房職人・住民などがいる（飯田市、湯沢市）
- ・自治体の中にチャレンジ精神と実行力に富む職員がいる（鯖江市、飯田市、湯沢市）
- ・活動の中核となっている大学、三セク、企業等に関係者を取り込んでアイデアを実行できるリーダーがいる（全事例）
- ・都市・地域が進むべき方向を示し、それを具体化していく市長の強いリーダーシップがある（江別市、鶴岡市、鯖江市）

### 「外」を入れたチームづくり

知的対流活動は全国、海外に及んでいる場合が多く、地域内の産学官金等に加えて、成果を獲得するうえで「外」の企業、大学、人材との広域的な交流が重要な要素となっている。

- ・イタリアと連携した産地の工房グループのイタリアデザインの開発（湯沢市）
- ・バイオベンチャー創出や関連企業の誘致、研究開発における全国的な企業・大学との連携（久留米市、鶴岡市）
- ・眼鏡産業における全国、世界の大学との共同研究（鯖江市）
- ・三セクの経営者として首都圏の旅行会社の営業マンを確保（飯田市）
- ・地場産品を活用した製品の開発・販売における町外・県外からの人材・企業の参加（四万十町）

### 国や自治体などの支援策の有効活用

地域内の産学官金等が連携し、推進する事業の目的の達成に向けて、施設整備・都市整備や研究開発・事業化、市場開拓などを支援する国などの様々な制度を組み合わせ、有効に活用している。

## 各論点に照らして事例に見られること③

### 論点③：知的対流のためにはどのような場を活用・形成しているか。

- 事例に見られる知的対流の場は以下のとおり。
- また、知的対流の場の形成や、そこでの取組みを支える環境づくりとして、次頁のような視点が重要と考えられる。
- これらを踏まえ、今後、知的対流の場の活用・形成のポイントを整理。
  - 備後連携中枢都市圏：特定の場所はなし（福山市役所等を活用）
  - 久留米市：久留米リサーチパーク内の賃貸式インキュベーション施設（賃貸ラボ、実験室、会議室）、試作等のための貸工場
  - 江別市：特定の場所はなし（研究開発拠点としては、北海道情報大学の健康情報科学研究センター及び北海道の食品加工研究センター）
  - 鶴岡市：鶴岡バイオサイエンスパーク内の鶴岡市先端研究産業支援センター（賃貸ラボ）、慶應義塾大学先端生命科学研究センターバイオラボ棟
  - 飯田市・下伊那地域：特定の場所はなし（南信州観光公社の活動拠点としては「りんごの里」、サービスを提供する施設としては既存民家）
  - 甲州市：ぶどうの丘（研究開発拠点としては、山梨大学ワイン科学研究センター）
  - 鯖江市：特定の場所はなし（研究開発拠点としては、福井大学、大阪大学、東北大学、米国デューク大学など域外の大学）
  - 湯沢市：産業支援センター（新製品開発検討、人材育成等のための研修工房）、川連漆器伝統工芸館（川連漆器の展示・販売、体験工房など）
  - 四万十町：道の駅（地元生産者の顔が見える直売所、オリジナル商品の販売、地元素材を使った食を提供する食堂）

（次頁へつづく）

## 各論点に照らして事例に見られること③

(知的対流の場の形成や、そこでの取組みを支える環境づくりとして重要と考えられる視点)

### 地域づくりとの関係

- 知的対流の場づくりが、都市基盤の整備や施設の整備・運営など地域づくりと連動している。
  - ・テクノポリス計画に沿って都市の面的整備を行い、さらに三セクの立ち上げに合わせて活動拠点となるベンチャー企業の入居施設などを順次開設（久留米市）
  - ・都市計画のもとにリサーチパークやインキュベーション施設を整備、さらに民間の活力を導入してホテル整備を行うなどまちづくりを推進（鶴岡市）
  - ・自治体がまちの観光・交流拠点と産業振興拠点を兼ねた施設として「ぶどうの丘」を整備・運営（甲州市）
  - ・地場産業の町としての将来構想（匠の里構想）を立案し、産業支援施設や情報発信施設を自治体として整備（湯沢市）
  - ・自治体が道の駅を整備し、そこを拠点に農家、事業者等の交流・連携が進み、新商品も創出されており、それら新商品の発表の場にもなっている（四万十市）
  
- 地域発イノベーションが産業の高度化・高付加価値化や集積の活性化ということだけでなく、**地域そのもののブランドづくりと連動**している。**地域そのもののブランディングが産業のイノベーションを支える環境づくりとして重要であり、当該産業における人材育成や観光振興との相乗効果を引き起こしている。**
  - ・眼鏡産業のブランド化に取り組む上で、交流活動を通じた都市のファンづくりを推進（鯖江市）
  - ・「匠の里」構想に沿った地域イノベーション活動がイタリアデザイン導入によるブランド化につながった（湯沢市）
  - ・農家民泊や様々な体験プログラムにより、観光だけでなく地域全体が活性化し、知名度も高まる（飯田市・下伊那地域）
  - ・四万十川流域の地域資源の保全と利用にこだわった商品開発によって、四万十という地域ブランドの向上と商品価値の向上を同時に進めている（四万十町）
  - ・歴史に根ざしたストーリー性をもったデニム産業の活性化から、さらにワインプロジェクトなどに横展開を進め、備後地域全体の地域ビジョンの実現に取り組む（福山市）
  - ・地元産ぶどうを使ったワインの認証制度を通じてワイナリーの育成と地域ブランド化を推進、さらに広域観光にも展開（甲州市）
  - ・「食と健康のまちづくり」をスローガンに掲げ、産学官や地域住民の連携による取組みを推進（江別市）
  - ・有能な研究者の交流・定着や住民等の健康増進・医療高度化に向けバイオクラスターの形成を推進（久留米市、鶴岡市）

## 各論点に照らして事例に見られること③

(知的対流の場の形成や、そこでの取組みを支える環境づくりとして重要と考えられる視点)

### 地域づくりとの関係

○地域発イノベーションの活動を実施する上で、必要に応じて、近隣の市町村との広域連携が図られている。

- ・福山市では、備後連携中枢都市圏の活動の一環として、井原市等とともに「デニムプロジェクト」などの活動に着手。  
(福山市)
- ・江別市では、北海道フード・コンプレックス国際戦略総合特区において、北海道、札幌市等と連携し、北海道食品機能性表示制度「ヘルシーDo」などの取組を推進。(江別市)
- ・飯田市では、下伊那郡の町村と連携して民泊受入れ農家の確保などを行い、南信州観光公社の広域的な事業展開を支援。  
(飯田市)
- ・甲州市と笛吹市では、山梨県「ワイン産業振興特区」で中心的な自治体となっているほか、「ワインツーリズム」などで山梨市と連携した取組を実施。(甲州市)



## 各論点に照らして事例に見られること④

論点④：地域発イノベーションの活動を支えるために、どのような交通ネットワークが活かされているか。

- 交通ネットワークの状況を認識し、それに即した取組を進めていく視点が重要と考えられる。
- これを踏まえ、今後、地域発イノベーションにより稼げる地域にしていくために必要な交通ネットワーク戦略を整理。

(事例に見られるポイント)

- ・ 地方大都市を中心に、交通ネットワークの強みを活かし、物流の効率化、人的な交流促進、観光振興を図っている。一方、小都市を中心に、一般的に交通ネットワークの利便性は良くないが、そうした中でも、地域ブランディングや地域づくりなどの視点を活かし、地域発イノベーションを実現している（こうした地域は、今後の交通ネットワークの進展による更なる活性化の可能性を検証する余地がある。）。
- 備後連携中枢都市圏：山陽道、尾道道等の高速道路と山陽新幹線等の鉄道ともに、関西と九州方面、四国、山陰方面を結ぶ結節点に位置。産業振興、観光振興を図る上で強みを有している。
- 久留米市：九州道、長崎道、大分道の結節点（鳥栖JCT）が市外近郊にあり、北部九州のクロスポイント。九州新幹線等の鉄道も九州各方面との利便性が高く、福岡空港、佐賀空港にも近く、バイオクラスター形成を図る上で強みを有している。
- 江別市：市内を道央道が通り、2つのインターチェンジがある。国道も3本通り、札幌市、千歳市他道内各地へのアクセスが良くフード特区における広域連携を進める上で強みとなっている。
- 鶴岡市：山形道があり山形市など県内東部と繋がるが、日本海東北道の新潟方面、秋田方面は県境が繋がっていないミッシングリンクとなっている。一方、近くに庄内空港があり、市街地から車で約30分で行き、研究や産業発展に伴う人的交流に寄与。
- 甲州市：中央道、国道20号が通り、東京新宿まで約1時間30分で繋ぐ。鉄道はJR中央本線が通り、特急を利用すれば、新宿まで約1時間30分で繋ぐ。こうした利点が観光振興やワイナリー振興に寄与。

## 各事例における「知的対流拠点」の整理

先に示した「知的対流拠点のイメージ」の4要素に照らし、各事例における「知的対流拠点」を整理。

事例	テーマ	知的対流圏域				
			①活動主体 (対流主体)	②コーディネート主体 (対流を起こす主体)	③活動空間 (知的対流拠点)	④活動を支える 交通ネットワーク
1. 備後連携 中枢都市 圏	デニム産業を 対象とした連 携都市圏での 産業振興	備後圏域 (歴史的に地域に 根ざすデニム関連 企業が集積)	圏域の6市2町 デニム関連企業 (圏域の6市2町が、デニム関連企業と協働 で産地をブランディング)	福山市 (主体間の繋がりをコーデ ィネート、活動を主導)	特定の場所はなし (福山市役所等を活 用)	高速道路(山陽道・尾道 道等)、鉄道(山陽新幹線 等)ともに、関西・九 州方面と四国・山陰方 面との結節点
2. 久留米市	福岡バイオバ レープロジェ クト	久留米リサーチパ ーク	域内外の大学、病院、バイオ関連 企業約300社(研究開発の実用化によ り、新たな事業を創出・既存事業の高付加 価値化) (株)久留米リサーチパーク(リサーチパーク(右 記)運営) 地域金融機関(出資・融資、リサーチパークに 社員常駐し経営サポート) 久留米市(リサーチパーク整備・運営の予算支 援、国の支援策の有効活用)	(株)久留米リサーチパーク (福岡県バイオ産業拠点推進 会議の事務局としてプロジェ クトのマネジメント、久留米 リサーチパーク運営を通じた主体間 の繋がりのコーディネートなど)	久留米リサーチパーク内の 賃貸式インキュベー ションオフィス、試 作等のための貸工 場、貸し会議室など	高速道路(九州道、長 崎道、大分道)の結節 点が近郊にある北部九 州の知拠点 鉄道も九州各方面と利 便性が高い 福岡空港、佐賀空港に も近い
3. 江別市	北海道フード コンプレッ クス国際戦略総 合特区	江別市域 (食品加工企業、 大学・研究機関が 集積。また、産学 官協定、市民ボラン ティアもあり)	市内外農業生産者 食品関連企業 江別市(大学・市民・企業等との連携に よる食の臨床試験システムの構築、フード 特区への参画など食品関連企業の食品開 発・販路開拓のサポート体制づくり、国の支援 策の有効活用) 北海道情報大学(臨床試験) 市民ボランティア(食の臨床試験に協力) 北海道(食品加工研究センターでの技術相談 や試験設備の提供、「ヘルシーDo」制度創 設で商品付加価値化支援)	江別市 (江別経済ネットワークの事 務局、大学・市民・企業等と の連携による食の臨床試験シ ステムの構築、フード特区へ の参画など、食品関連企業の 高付加価値な食品開発・販路 開拓のサポート体制づくり)	特定の場所はなし (研究・開発拠点と しては北海道情報大 学の健康情報科学研 究センター及び北海道の 食品加工研究センター)	市内に道央道の2つのイ ンターがある。 国道も3本あり、道内 各地へのアクセス利便性が 良い。
4. 鶴岡市	先端研究所と バイオベンチ ャー	鶴岡バイオサイ ンスパーク	慶應義塾大学先端生命科学研究所 (世界最先端の研究、複数のベンチャー企 業創出、高校生等を対象にした研究人材育 成、住民と連携した健康調査) 大学発ベンチャー企業等(研究成果 の事業化、市外、海外人材誘致、生活関連 施設・宿泊施設整備)	鶴岡市 (大学の誘致、特区で外国人 研究者の活動を支援する規制 緩和、国・県の支援策の有効 活用、用地確保・研究棟建 備・研究教育支援費拠出)	鶴岡バイオサインスパーク内 の鶴岡市先端研究産 業支援センター(賃貸ラ ボ)、慶應義塾大学 先端生命科学研究所 バイオ棟	山形道で県東部と繋が るが、日本海東北道の 新潟方面・秋田方面は ミッシングリンク。 庄内空港から車で約30 分。

事例	テーマ	知的対流圏域				
			①活動主体 (対流主体)	②コーディネート主体 (対流を起こす主体)	③活動空間 (知的対流拠点)	④活動を支える 交通ネットワーク
			<p>理化学研究所等 (先端生命科学研究所やベンチャー企業と共同研究)</p> <p>鶴岡市 (大学の誘致、特区で外国人研究者の活動を支援する規制緩和、国・県の支援策の有効活用、用地確保・研究棟整備・研究教育支援費拠出)</p> <p>山形県 (研究教育支援費拠出、公益財団法人庄内地域産業振興センターを通じ研究成果の事業化支援)</p>			
5. 飯田市及び下伊那地域	農家民泊を取り入れた着地型観光	下伊那地域 (農家、公民館を拠点としたコミュニティ活動、伊那谷の自然、生活文化が集積)	<p>飯田市観光部局 (農家民泊の仕掛け、公社への出資・事業継承・職員派遣)</p> <p>(株)南信州観光公社 (様々な体験型観光商品の開発・営業、インストラクター育成)</p> <p>地元農家、住民 (民泊や体験活動の受け入れ、インストラクターとして参加・協力、体験型観光商品の開発に参画)</p> <p>下伊那地域の町村、民間事業者 (公社に出資)</p>	飯田市観光部局 (下伊那地域の農家、住民の巻き込み、町村、民間事業者への出資呼びかけ、域外旅行会社OB誘致) (株)南信州観光公社 (下伊那地域の農家、住民の巻き込み)	特定の場所はなし (サービスを提供する施設としては既存民家)	中央道の3つのインター、3つの国道 (名古屋市まで約2時間、長野市まで約3時間、東京まで約4時間) JR飯田線が縦貫するが、山間部のため遅い (岡山で約2時間半、豊橋まで特急で約2時間半) 最寄りの松本空港まで車で1時間以上 (原則福岡便と札幌便のみ)。
6. 甲州市・笛吹市	ワイン特区による広域的な地場産業振興	甲州市・笛吹市域 (歴史的なブドウの産地、ワイナリー数が日本一の集積)	<p>山梨大学ワイン科学研究センター (ブドウの品種改良、栽培技術改良、醸造酵母等の研究、ワイン製造・ブドウ栽培・経営の高度人材育成)</p> <p>地元ワイナリー (ワイン専用ブドウの自社栽培、ワイン醸造技術の開発、ワインを観光資源としたワインツーリズム)</p> <p>甲州市 (廃止トンネルを活用したワイン貯蔵施設整備によるワイナリー支援、ぶどうの丘整備・運営によるマーケティング展開支援、認証制度制定)</p> <p>山梨県 (ワイン産業振興特区、国産ワインコンクール開催、地理的表示制度「山梨」取得)</p>	甲州市 (ぶどうの丘運営によるワイン産地としての情報発信を通じた地域ブランディング、マーケティング展開支援、域外観光客受け入れ)	ぶどうの丘 (研究・開発拠点としては山梨大学ワイン科学研究センター)	中央道、国道20号が通り、新宿まで約1時間半で繋ぐ。 鉄道はJR中央本線が通り、新宿まで特急で約1時間半。

事例	テーマ	知的対流圏域				
			①活動主体 (対流主体)	②コーディネート主体 (対流を起こす主体)	③活動空間 (知的対流拠点)	④活動を支える 交通ネットワーク
7. 鯖江市	産学官連携による成長分野への進出	鯖江市域 (歴史的な眼鏡産地として眼鏡関連企業が集積)	<p>地元の眼鏡関連企業 (大学等と共同で新素材や金属加工技術の開発による付加価値の高い眼鏡を製造、医療機器の開発、ICT製品の開発)</p> <p>域外の大学等</p> <p>地域金融機関 (融資、地元企業、大学及び行政の情報交流会、先端技術等について大学の講師を招いた地元企業向け講演会)</p> <p>鯖江市 (新製品開発や販路開拓等への支援)</p>	鯖江市 (眼鏡担当官を配置し産学連携・異業種連携のためのマッチング、国際展示会への出展支援)	特定の場所はなし (研究・開発拠点としては福井大学、大阪大学、東北大学、米国デューク大学など域外の大学)	北陸道のインター (名古屋方面、京都方面ともに約2時間) JR北陸本線 (名古屋まで特急で約2時間) 新幹線は米原駅から東海道新幹線、金沢駅から北陸新幹線 (どちらも乗換駅まで最速でも約1時間) 最寄りの小松空港まで1時間以上。
8. 湯沢市	川連漆器のイノベーション開発	湯沢市稲川地域 (旧稲川町) (伝統的な川連漆器の工房・職人が集積)	<p>地元の漆器事業者 (任意のグループで技術研鑽、新製品開発・ブランド化、販路開拓、漆器の普及啓発)</p> <p>漆器工業協同組合 (産業支援センター・川連漆器伝統工芸館の運営、技術・デザイン開発、販路開拓、人材育成)</p> <p>域外デザイナー (ユニバーサルデザイン商品の開発、イノベーション商品の開発)</p> <p>湯沢市 (旧稲川町) (「匠の里構想」策定、川連漆器伝統工芸館の整備、大都市・海外での展示会出展支援、新製品開発や販路開拓等への予算支援)</p> <p>秋田県 (産業支援センター整備・町への譲渡、地域産業集積活性化計画の策定)</p>	湯沢市 (域外デザイナーの巻き込み、展示会開催等を通じた地域産品の情報発信、漆器産地活性化ビジョン「匠の里構想」策定)	産業支援センター (新製品開発検討・人材育成等のための研修工房) 川連漆器伝統工芸館 (川連漆器の展示・販売、体験工房など)	市内北部に湯沢横手道路のインター (秋田市内まで約1時間) JR奥羽本線が通るが、長距離列車がないため、広域移動では山形新幹線か秋田新幹線に乗り換え (東京まで早くても約4時間) 最寄りの秋田空港がある (車で約1時間半、鉄道利用で約2時間)
9. 四万十町	四万十川流域の産品と人による地域おこし	四万十町域	<p>(株) 四万十ドラマ (地域産品を使った商品開発、道の駅での販売、通信販売、道の駅運営、会員制度RIVER創設による着地型観光)</p> <p>しまんと新一次産業 (株) (栗の糖度等の強みを数値化しブランド化)</p> <p>地元農家、加工業者、住民 (商品開発参画、販売商品の原材料供給、四万十ドラマへの出資)</p> <p>域外専門家 (栗の再生・生産性向上の技術支援)</p> <p>全国会員 (商品開発モニター)</p> <p>四万十町 (四万十ドラマの設立、事業立上げ期等の予算支援、道の駅の整備)</p>	(株) 四万十ドラマ (地元農家、地域内外の加工業者等の巻き込み、道の駅や大都市の大手百貨店での販売を通じた地域ブランディング)	道の駅 (地元生産者の顔が見える直売所、オリジナル商品の販売、地元素材を使った食を提供する食堂)	高知があるが、高知市内まで約2時間。 東西・南北に国道が通るが、山間部のため移動に時間を要する。 JR土讃線、予土線、土佐くろしお鉄道中村線の3線が通る (高知まで特急で約1時間) 最寄りの高知龍馬空港まで鉄道、車ともに約1時間半。